

読んでみませんか?

～新刊案内～

『アジア動物探検記』

飯島 正広／著 福音館書店



ベンガルトラ、インドサイ、コモドオオトカゲなどの希少種から、身近な動物までを、アジア各地で30年以上にわたりカメラに収めてきた著者による貴重な記録集。

『ハウスイフ2.0』

エミリー・マツチャー／著
 森嶋 マリ／訳 文藝春秋



長引く不況のアメリカでは今、高学歴の女性たちがキャリアを捨てて家庭に入るケースが増えているという。彼女たちが選んだ、新しい主婦の生き方とは。

『辞書になった男』

佐々木 健一／著 文藝春秋



1冊の辞書を作っていた2人の編纂者は、やがて訣別して全くタイプの異なる辞書を世に送り出すことに。『新明解』と『三省堂』、2つの日本を代表する国語辞典誕生の物語。

『約束の海』

山崎 豊子／著 新潮社



昨秋に亡くなった山崎豊子さん最後の作品。旧海軍士官の父と、自衛隊員の息子を主人公に、戦争と平和を描く三部作となる予定だったものです。

おはなし会

4月6日(日)、13日(日)、27日(日)

陵南の森図書館 14:00

4月 9日(水) 東部図書館 10:30

4月12日、26日(土) 羽曳が丘図書館 15:00

4月19日(土) 陵南の森図書館 15:00

4月19日(土) 古市図書館 15:00

4月20日(日) 陵南の森図書館 11:00(小さい子向き)

11:30(少し長いお話を聞ける子向き)

4月26日(土) 丹比図書館 10:30

4月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日)

中央図書館 13:30

ちびっこサロン(市役所敷地内:森のゆうびんきょく)

日時 4月9日(水) 10:30～

内容 おはなし・手遊び・おりがみなど

おはなしボランティア入門講座(定員:15人先着順)

日時 5/15日、29日、6/12日、26日、7/10日

(各木曜) 10:00～12:00

場所 中央図書館 会議室

講師 岸下 良子氏(おはなしボランティアグループ「はびきの」)

申込 4月8日(火) 10:00より、中央図書館にて(電話可)

今月の
休館日

4月30日(水)

※月末日を除き、図書館は日曜・祝日も開館しています。

サラダボール

わたしちょうじよ さい ころ おお くな
 私の長女は3歳の頃に、「大きくなったらウサギさんになりたい」と言っていました。その少し前は「ゾウさんになりたい」と言っていました。おとなの感覚では「？」かもしれませんが、子どもは真剣です。本当にゾウさんやウサギさんになりたいと思っていたようです。その時は、子どもなりに何らかの理由があるのだらうと思いましたが、私はそれを詳しく理解することは出来ませんでした。

このエピソードは一例ですが、子育ての中で子どもは不明瞭なメッセージ(わがまま的なものも含めて)を数多く発信します。そんな時、おとなはつい「こうなんでしょう」と子どもが

ことば せつめい ぶぶん き
 言葉でうまく説明できない部分を切り捨てて整理してしまうことがあるように感じます。子どもの発するメッセージの中には子ども自身も自分が何を言いたいかわからないような思いもたくさん含まれているはず

わたし じしん はんせい
 です。私自身の反省でもありますが、そういったものをおとなが聞き取る余裕がなくなっているのではないのでしょうか…。

にんげん せいご しゅうかん ほはおや かお こえ
 人間は生後2週間で母親の顔と声

がわかるようになるそうです。ハイハイをするようになると、手当たり次第にモノをつかんで口に入れ、振り回し、ながめたり放り投げたり、まわりのものにすごく関心をもち積極的に行動していきます。やがて言葉

をしゃべれるようになると、「これ何?」「どうして?」「なぜそんな

の?」と好奇心を持って何でも聞いてきます。こうした疑問に対して、まわりのおとなたちがいいえに受け答えし、心のこもった対話をするのが、新しい言葉の獲得と知識の習得につながるそうです。

現在、「別に」や「むかつく」という言葉で感情表現を済ませてしまう子どもが増えていると聞きますが、このこととおとなが子どもの微妙な言葉づかいや感情の読みとりをすることが出来なくなっていることは何らかの関わりがあるように思います。おとなの子どもたちへのいいえな関わりがコミュニケーション能力の育成基盤となっていくのだと思います。